620　中央大学学友会諸会

〔『法学新報』第30巻12（348）号　大正9年12月1日〕

○中央大学学友会諸会　去る十月末挙行せられたる陸上運動会を始めとして爾来記念日に於ける学生大会、剣道部大会、柔道部大会、庭球部大会、擬国会等の催しありたれは左に其大略を記せんに

陸上運動会＝十月二十四日市外中野に於ける運動場に於て開催せらる斯日前日の曇天新に霽上りて秋高肥馬の候とて未明より三三五五中野を指して集へる学生の外来観者引きも切らす午前九時予定の如く競技を開始す「レース」は第一回二百「メートル」より進行し抽籤、麺麭喰、輪廻、障害物、縄飛び、毬握り、戴嚢、提灯拝借、二人三脚、旗取り、袋飛ひ、兎飛ひ、逆立、重荷、武装、跛、隻脚、暗算、一人一脚、盲唖、抽籤、走幅、走高、伝令、野仕合、棒倒し、戴嚢スプーン等あり十時に至りて既にさしもに広き運動場も観覧者を以て充たされ立錐の地も

なき盛況を呈す当日の呼物たる三学部の趣向を凝したる仮装行列は少なからす興味を添へ数百「メートル」の競走三十余回に亘り其最も人目を惹きたるは五哩並に十哩の「マラソン」競争なりき尚ほ中等学校、専門学校等の競争の外、対部「レース」、対科「レース」等孰れも勇壮活潑の光景裡に挙行し去り其黄昏法科の優勝を以て目出度終了を告けたるは午後七時頃なりし

学生大会＝十一月十一日午後一時より中央大学大講堂に於て挙行せられたるか須賀了氏の開会の辞に次て林博士の演説あり学生諸氏か三十有余年の過去を顧みて不変の学風を認め将来大に其精神を発揮すへき旨激励せらる斯くて余興に移り滔水の琵琶、丸一一座の太神楽、文楽及楓枝の落語、貞山の講談其他十数番に亘る学生余興等孰れも喝采声裡に演了し大福、すし、赤飯等に舌鼓を打ちて満堂破れんばかりの歓声絶ゆる間もなく中央大学の万歳を三唱して散会したるは午後九時を過く尚ほ学友会雑誌部より『中央大学学友会誌』第一号を発行して当日頒布したり

剣道部大会＝第十五回にして十一月十四日午前九時より大講堂に於て開催す午前は中央大学学生の紅白勝負に次き中等学校三本勝負並其切抜高点勝負あり午後は専門学校三本勝負八十回の後学友会会長岡野博士の挨拶ありて中山師範長谷川英信流居合を試みらる斯くて十数番の無検証仕合外各師範の模範仕合ありて各専門学校紅白高点仕合に入り各員奮戦力闘頗る痛快を極む

柔道部大会＝亦第十五回にして十一月二十一日午前十時より大講堂に於て開催す午前は校内紅白勝負にして対部勝負を以て終りを告け午後は無段者の二本試合を以て始まる合戦実に四十有余、馬場愿治博士会長に代りて挨拶を為し次て有段者の二本試合に入る初段、二段、三段各取組みて三十回に亘り又五人掛、無段者高点試合、有段者高点仕合等あり龍攘虎搏士気大に振ふ

斯日一方庭球部員は日比谷公園に於て各校聯合大会を開く競争を試みたるは十二校の多数に上り其中一校を除く外は何れも我勝利に帰し部員の意気天を衝くの概ありき午後六時終了

中央大学擬国会＝十一月二十三日午前十時辞達学会の主催にて大講堂に開会す閣員、正副議長より政府委員に至るまて一切学生自身其任に当り馬場鍈一理事の外花井会長、堀江副会長指導の下に極めて真面目に挙行せられたるは洵に慶すへしと為す会議は総理大臣其他各大臣の演説に始まり之に対する質問演説十数人に上り痛烈を極む党は民主、中立、保守に分れ喧喧囂囂満堂湧くか如く破るるか如く次て上程されたる議案は（一）治安警察法中改正法律案（二）衆議院議員選挙法中改正法律案（三）労働組合法制定建議案にして（一）を議し（二）を論するに及ひ論戦頗る切迫せしか偶〻不信任案の提出と為り甲論乙駁議場は非常の混乱を極めたりしか突如として開散（ママ）の勅命ありて万歳声裡に散会したり時に午後六時、本会は都合に依り急忽に企てられたるに拘はらす比較的に万事整頓し頗る盛会なりしは成功と謂ふへし

因に以上諸会の記事は学友会雑誌第二号に詳細報告せらるへき筈なれは茲には簡単に記したる次第なり